

# Love is Free Campaign Malawi Report 2015

GENERAL INCORPORATED FOUNDATION MUDEF

**ハイライト:**

- マラウイで2000張の蚊帳を配布
- オリジナルパッケージの蚊帳を配布



**目次:**

マラウイ概要	2
現地パートナー団体	2
蚊帳の調達	3
視察スケジュール概要	3
視察初日、2日目レポート	4
オリジナルデザイン	5
視察を終えて	6
協力団体・支出	6
キャンペーンについて	7

## 第5回マラウイでのマラリア予防の蚊帳配布 概要

2015年9月2日～5日にマラウイを訪問。第5回目となるマラリア予防蚊帳の配布に同行しました。今回は合計2000張の蚊帳の配布を実施しました。

Love is Free Campaign では2010年～2015年に、マラウイ共和国での蚊帳配布を5回にわたり実施してきました。第1回は2010年2月（500張）、第2回は2011年7月（2000張）、第3回は2012年10月（2000張）、2014年3月（2000張）、そして今回の配布で合計8500張となります。2012年の第3回目の配布の際、協力パートナーである現地NGO「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア（CHOC）」のチャボンバ代表と話し合い、新たに支援対象地区を従来のナミテテ地区に加えてンチェウ地区に拡大してさらに配布を実施してきました。

第5回目となる配布では、ナミテテ地区、およびンチェウ地区2か所での配布に立ち会ったほか、パートナー団体、および現地の日本大使館、JICA事務所も訪問、支援の方向性などについて意見交換を交わすこともできました。また今回は、第4回目の配布に同行された株式会社たき工房様の協力により、オリジナルデザインのパッケージを配布、字が読めない子どもにも蚊帳の使用方法が分かる仕組みを提供しました。



## マラウイ共和国概要



マラウイは、アフリカ大陸南東部に位置する共和制国家で、首都はリロングウェ。現地語で「マラウイ」は炎、光を意味する。マラウイ湖の西岸にある南北に細長い国で、国土は北海道と九州を合わせたほど。1964年の独立以来、大きな政治的混乱はなく比較的安定した社会を形成しています。

公用語は、英語とチェワ語という現地語。人口は1,636万人（2013年）。主食であるメイズと、主要輸出産品であるタバコや茶の栽培が盛んで、人口の8割近くが農業に従事しています。

しかしマラウイの人々を取り巻く環境は厳しく、人口の70%以上が世界銀行が定める貧困ライン（1日1.25ドル）以下で暮らすほか、1人当りGNI(国民総所得)は2014年には250ドル。統計上は世界最貧国とされています。

貧困にも起因する健康問題は深刻で、15～49歳のHIV感染者及びエイズ患者は、人口の10%超を占めています。また、マラリアはマラウイ全土で一年中発生し、6人に1人がマラリアが原因で命を落としており、5歳未満の子どもの死亡原因の第1位でもあります

他方で、独立以来50年余りで人口が4倍になるものその食料を自給自足で賄ってこれたという意味では、国際経済の潮流に乗らずに従来の生活を維持しているともいえる特徴があります。実際ある調査では国民幸福度はアフリカでもっとも高いという結果も報告されました。

貧困状況にありながらその生活を享受し、競争せずに過ごしてきた社会、それがマラウイの特徴ともいえるでしょう。

マラリアが原因で命を落とすのは6人にひとり  
5歳未満の子どもの死亡原因の第1位でもある



## 現地パートナー団体: コンソル・ホームズ・オルファンケア

「コミュニティで子どもを育てる」その意識がCHOCの活動を支えている。

コンソル・ホームズ・オルファンケア(Consol Homes Orphan Care: CHOC)は、マラウイ中部に位置するナミテで活動するNGO。首都リロングウェ近郊に本部があり、車で1時間ほどの位置にあります。

創始者であるチャボンバ夫妻を中心に2000年に活動を開始した団体は、エイズ孤児を対象にした活動を、1本の樹の下から始めました。地域住民や支援団体など多くの支援を得て、今では本部で7名のフルタイムスタッフと多数のボランティアが参加し、現地のコミュニティの人々自身が作り上げ運営している。

現在、ナミテ地区で12,000人、ンチェウ地区で11,000人の子どもたちが登録し、サポートを受けていま

す。主な活動内容としては、エイズ孤児や経済的に困窮している世帯の子ども、また両親が忙しくケアが難しい子どもなど、それぞれのニーズに合わせてカウンセリングや教育支援が行われています。

また両親ともに生まれてすぐに亡くなってしまった新生児はマラウイでは祖母や母親の姉妹が育てるのが通常だが、CHOCではエイズ孤児が成長するまで授乳サポートや栄養支援も行っている。「コミュニティ全体で子どもを育てる」という意識が、団体の活動を支えています。



## 蚊帳の調達

第5回となる今回の配布では、2009年のキャンペーン開始以来使用している、住友化学株式会社の「Olyset® Net」というLLIN（長期残効型防虫蚊帳）を同社より調達を行っています。

調達はマッチング寄付の形で実施され、mufefが住友化学株式会社より購入する1000張分の「オリセット® ネット」に対し、同数分を住友化学よりご提供いただきました。

「オリセット® ネット」は、住友化学が独自技術により開発した長期残効型防虫蚊帳で、WHO（世界保健機関）からも使用を推奨されています。同商品は有効成分であるペルメトリンを「オリセット® ネット」の繊維内に練りこみ、徐々に表面に染み出させることに

よって、選択をしても効果が持続します。また、ポリエチレン製のため丈夫で破れにくく、熱帯の地域でも通気性が確保されるよう、蚊帳の穴の形状を工夫しています。

調達はベトナム・ホーチミンの同社工場より購入、マラウイまで船を用いて輸送を行いました。マラウイ通関では住友化学の協力を得て、商品がチャリティであることを証明し、無税でCHOCへ送りどけられています。



## 視察スケジュール概要

9/1	出発
9/2 Day 1	mufefスタッフ現地入り（リロングウェ） JICAマラウイ事務所訪問、意見交換
9/3 Day 2	日本大使館訪問 ナミテテ地区視察 現地NGO「コンソル・ホームズ・オルファンケア」代表との打ち合わせ 蚊帳配布立ち会い（約300張配布）
9/4 Day 3	ンチェウ地区視察 蚊帳配布立ち会い（約300張配布）
9/5 Day 4	出国

## 視察初日レポート(スタッフブログより)

何かもらえる？  
そう思って押しかける  
子どもや母親。  
どう選別し、蚊帳を渡すか。  
選択は難しい。

2015年の蚊帳配布第6弾。

1年半ぶりのマラウイはちょうど乾季。特に今年は前半に南部で洪水になったそうですが、その後雨季の雨量が少ないために、マラウイでは非常事態宣言が出されるほど乾燥していました。乾季ならではの、作物がない地域が広がります。

マラウイは地域によって厳しい干ばつとなったことから国民の5-6名にひとり援助を受けなければならないという事態に直面しました。世界最貧国の一つであるマラウイにとって、その影響は非常に大きかったとも言えます。

そんなマラウイでの蚊帳の配布初日は、リロングウエ近郊のナミテテで開始しました。ナミテテはmudefがこれまで支援しているコンソル・ホームズ・オルファン・ケアの本部があるエリアでもあり、これまで何度も足を運んできました。今回の訪問でも変わらず、懐かしい歓迎の歌で出迎えてくれました。

訪問に当たってはまずは代表のチャボンバ園長夫妻と打ち合わせ。今回の配布計画と今後の実施の在り方を協議します。

チャボンバ園長からは「これだけ継続して支援を行い、そして今後の活動についてざっくばらんに話せて本当にうれしい」とのコメントが。現地での事業の実施では本当にお

世話にあっているチャボンバ園長からのメッセージは私たちにとっても本当に嬉しいものがありました。

今回の配布の第一の特徴は、これまで配布の現場で名簿を改めていた方式を切り替え、事前に名前を確認し印刷した紙を発行して、子どもの事前確認が行われていたこと。それにより現場での混乱を避けると同時に、子どもの個人認証を容易にしました。

とはいえ、現場ではCHOCに登録していないものの、「何かもらえるのでは」の気持ちで押しかける子どもも多く、どの子どもが優先されるべきか、その判断が非常に難しいという場面にも出くわしました。

できるのであればあらゆる子どもにも渡したい、しかしそれには限度があります。CHOCでは経済的、社会的困窮により子どもを区分し、それに応じて配布の優先順位を付けていることから、たとえ貧しいとしても、その順位のリストに入っていない場合は支援の対象にはならないからです。初日に配布したのは約300張。しかしそれでも現場では「何で私にもらえないのか」訴える人も多くみられました。

現場の混乱は、蚊帳のニーズの高さと同時に、誰をサポートするかその選別のむずかしさを象徴しているように感じました。



## 視察2日目視察レポート(スタッフブログより)



2日目の視察は、リロングウエから車で約3時間にあるンチエウ地区での配布となりました。同地区は昨年も配布の対象となったのですが、CHOCでは設立以来ナミテテを含むリロングウエ近郊と並行して支援しています。

ンチエウ地区はチャボンバ園長曰く「展開的なマラウイの田舎」なのですが、一番近い病院へも25キロ離れている、非常にアクセスの悪い地域になります。実際CHOCは支援場所に「村の診療所」というべき保健スポットを建設していますが、これも病院へのアクセスの悪さから助かる命も失われているという現状がありました。

また近隣に大きな川があるため、雨季になると洪水や浸水の可能性もあり、それもマラリアをはじめとする感染症

が発生する原因となっています。

今回配布したのは約400張程度。初めにエイズ孤児の子どもなど、CHOCの中でもとくに支援が必要と認識され、登録された子どもたちでした。その後CHOCに登録している子どもの中で経済的困窮におかれていることや、片親であるために社会的困窮にある子どもなどを優先的に配布します。その後はCHOCでボランティアとして活動する母親や地域で主導的な役割を果たしている人にも配布しました。

他方、配布をしている、と聞きつけ、登録している家族から何度も子どもを送りだして蚊帳を受け取ろうとするケースも。中には6人もやってきて蚊帳をもらおうとした家族も

いました。優先順位をつけているその意味を十分に理解せずただ欲しいという人もあり、スタッフが落ち着かせるのに一苦労でした。

経済的、社会的に困窮している地区ではみんなが助け合い、そして意識を持って子どもをケアすることになります。配布に立ち会った村のチーフからも「CHOCはあくまでもサポートする人たち。子どものケアするのは私たちなんだ。私たちが意識を持って子どもをサポートしよう。子どものサポートは私たちの未来につながる」というスピーチは、本当に印象的でした。

しかしこの「子どもをサポートする」のがどこまでボランティアの活動なのか、善意なのか、判断が難しい、というのが今回の配布の混乱の一番の理由かもしれません。

最終的にまだ蚊帳が残されているので、現地での話し合いで配布先を決定することとなりました。

配布に当たっては同時にボランティアスタッフによる「栄養プログラム」の一環でおかゆ状のものが子どもたちに提供されていました。この栄養プログラムはとりわけ経済的困窮状態にあるエイズ孤児や家庭を対象に配布されており、それによって子どもが健康に育ち、学校に通い教育を受けることを可能にしています。

配布の帰りに道には片道5-6キロをかけて受け取りに来た子どもたちの姿を帰り道で何度も出会いました。配布の対象地域は遠くは片道10キロ近くまで上ります。そんな遠い距離を蚊帳を受け取りに来てくれた、その重みをかみしめずにはられません。



## オリジナルデザインの蚊帳

第6回目となる蚊帳の配布は、デザインを主軸とした制作プロダクションとして多くの仕事を手掛けている株式会社たき工房の協力を得て、文字が読めない子どもたちでも蚊帳の正しい使用方法を覚えられるよう、パッケージにイラストを使いわかりやすく説明がされました。

同社では、mudefの「音楽とART」を通じて、地球規模の課題を解決していくという趣旨に賛同し、社会貢献活動の一環として社内プロジェクト「TAKI SMILE DESIGN LABO」を設立。「世界の子どもたちの笑顔をつくる」をテーマに活動を実施されています。

2014年3月にはLove is Free Campaignの配布の現場に同行し、アフリカの子どもたちに表現する楽しさ、作ることの喜びを知ってもらうためのイベント「第1回クレヨンプロジェクト」を実施してきました。またその際にはCHOCのチャボンバ園長からも「子どもたちの心を表現するのに、絵を描くほど素晴らしい試みはない」というメッセージもいただきました。

今回の配布では、同プロジェクトではオリジナルの蚊帳のパッケージデザインを制作することを決定、実際に2014年の蚊帳の配布に参加したスタッフによってデザインが行われました。

文字の読めない子どもたちにもマリアの怖さを知り、正しく使ってもらおう。

現地での様子を目の当たりにしたからこそ、子どもたちにとって何がベストなのか？という思いを込めてデザインしていただきました。また、たき工房様からは配布に関わる費用の一部もご寄付いただきました。

また同社では、支援の取り組みの一環として、マリアについてわかりやすく紹介した絵本を制作。制作に当たっては、2014年の蚊帳の配布に視察に参加された同社スタッフの蚊帳タッチを中心にデザイン、執筆宇いただいています。

mudefの活動についても紹介いただいている、このTAKI SMILE DESIGN LABOから発行された絵本は、都内の公立図書館を中心に寄贈される予定です。

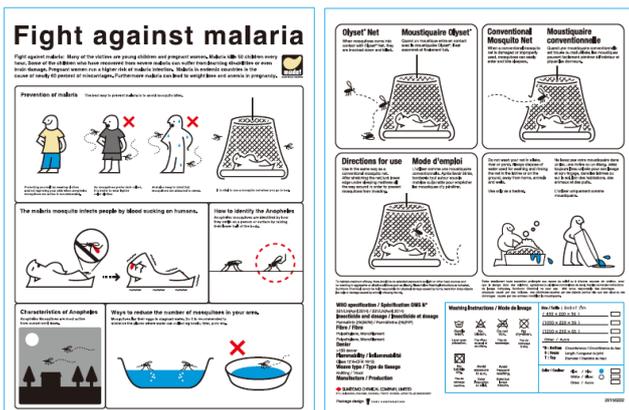
言葉が通じなくても「思い」は伝わる。

たき工房では今後もアフリカの子どもたちへの継続的な支援はもちろん、世界の子どもを笑顔にするための活動を積極的に行っていく予定です。

「子どもたちの心を表現するのに、絵を描くほど素晴らしい試みはありません」

-CHOCチャボンバ代表

オリジナルデザインの蚊帳パッケージ（表・裏）



絵本デザイン

## マラウイ視察を終えて(スタッフ所感)

今回の配布では繰り返し「本当に求められているサポートは何か」について意見交換することが多かったように感じています。とりわけ蚊帳の配布については配布し続けるのかどうか、さらには配布ではない新しい方法として何が有効なのか、様々な意見が出されました。

S ¥ キャンペーン開始以来ひとつの団体と継続した支援の方向性が果たして適切なのかという根源的な疑問と同時に、継続するが故の信頼関係の情勢や新たなプロジェクトに対するざくばらんな意見も出るのではなど、その是非は今後の議論が必要と考えられます。

ただ現地からはとりわけマラリアで死亡する子どもは多いものの、マラリアが「貧困の病」といわれるように貧困や環境変動、社会情勢など様々な状況を勘案して検討すべき問題であること、従って、単なるマラリア支援だけではないということについて、関係者以外からも様々な意見が出されマラリアの問題は単に医療従事者による支援や物資の配布だけではとどまらず、経済的、社

会的インパクトも考えながら進める必要があります。こうした意見については、もともとキャンペーンは蚊帳の配布を目的にしているのではなく、そもそも子どもが健やかに安心して学校に通うことができる環境づくりが根底にあったことが挙げられます。

子どもが安心して健やかに学校に通うためには蚊帳の有効せいはもちろんですが、同時に子どもたちを取り巻く貧困やコミュニティとの関係についても考える必要があります。「コミュニティ自身が子どもの将来に責任を持つべきだ」というチエウ地区の首長の言葉はその裏付けでもありました。

今回の繰り返し行われた打ち合わせの中で、今後の方向性について現地より提案を受けることとなりました。彼らが考えるマラリア制圧のために必要な提案を楽しみに待ちたいと考えています。

## これまでの協力団体一覧(50音順、敬称略)

### ◆ 寄付

- ⇒ 住友化学株式会社：2011年度より蚊帳の調達でのマッチング寄付の提供と調達サポート
- ⇒ 円谷プロダクション（2010年）
- ⇒ リコー社会貢献クラブ・FreeWill（2010年）
- ⇒ 株式会社リズムメディア：（2014年）  
オークション収益による寄付とライブでのチャリティバーの寄付
- ⇒ vanilla sugar（チョコレートデザイン株式会社）：オリジナル商品「星空のショコラ」の価格の10%を寄付（2009-2013年、計4回）
- ⇒ 株式会社たき工房：蚊帳購入費一部負担

### ◆ 【物品提供】

- ⇒ 国立天文台：組み立て式望遠鏡 5 セット（2010年、2014年）
- ⇒ マルカ株式会社：ウルトラマンの指人形 500 体
- ⇒ 株式会社たき工房：第5回目配布時のオリジナルパッケージデザイン提供

## 支出報告(概算) 注：1ドル=120円で計算

費目	内容	金額	備考
渡航滞在費	渡航、滞在費など	¥401,094	
蚊帳調達費	1000張分購入、輸送費	¥1,121,880	9349ドル
	合計	¥1,522,974	



<http://loveisfree.mundef.net/>

## Love is Free Campaignとは

マラリアの脅威にさらされる子どもたちへ予防のための蚊帳を配るキャンペーン。現地で蚊帳の配布、マラリア予防に必要な知識を伝える他、日本でマラリアの問題についての啓発を行い、子どもたちが健やかに過ごすことができる環境づくりを目指します。

2009年よりマラウイのエイズ孤児をサポートするNGO「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア」とともに始めた活動をきっかけに、現在、マラウイおよびセネガルで、その活動の幅を広げています。

### はじめに

2008年11月にマラウイを訪れた際、両親をエイズ関連疾患で亡くしお祖母さんと二人で暮らす少女エリナと出会いました。彼女の家で飛んでいたたくさんの蚊に衝撃を受けたことが、キャンペーンを始めるきっかけとなりました。

エリナが通っていたエイズ孤児の支援センターが「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア」でした。創始者であるチャボンバ園長は、「ひとりでも亡くなると悲しいのに、それが周りにたくさん起きました。悲しんでいる子どもたちを助けたくて、活動を始めたんです」と話してくれました。

「Love is Free. 私たちはお金はないけれど、子どもたちを抱きしめてあげられる。愛は売るものでも、買うものでもない。ただそこにあるものなの」

彼女と子どもたちのために、何かできることを。そんな想いから、彼女の言葉を借りて「Love is Free Campaign」はスタートしました。

### キャンペーンの活動

マラリアの拡大を防ぐための有効な方法は蚊帳を使用すること。

mundefでは、現地NGOと連携してマラウイ及びセネガルで蚊帳の配布活動を行っています。配布の際には、対象者に正しい蚊帳の使用方法や、マラリア予防のために必要な知識を伝えるレクチャーを行います。

また、日本では認知が低いマラリアについて、サイトやメールマガジンの発行を通じて、マラリアに関する問題を紹介、開発途上地域でのマラリアの問題について広く伝える活動を行っています。



マラリアは「ハマダラカ」という蚊が媒介する、感染症。

WHO(世界保健機構)によれば、2013年のマラリア患者数は、約1億9800万人。そのうち約58万4000人が命を落としました。被害者の9割はアフリカに住む5歳児未満の子どもで、1分に1人の子どもがマラリアで亡くなっています。

マラリアは、「貧困の病」と呼ばれ、途上国の経済成長を妨げる要因でもあります。マラリアに罹患することで、就業や教育の機会を失い貧困から脱却できないという悪循環に苦しんでいます。マラリアによるアフリカの経済損失は年間推定120億ドル(約1.2兆円)。アフリカの経済発展のためには、マラリアの撲滅が必要不可欠です。



We are mundef.

一般財団法人mundef（ミュージーフ）は、「Music + Design」が組み合わさってきた言葉。「音楽とART」を通じて、地球規模の課題を解決するために設立されました。

mundefの活動の軸は、「ミレニアム開発目標（MDGs）」。MDGsとは、2000年、189の国の人々が同意した、21世紀の国際社会が真っ先に取り組むべき8つの課題。2015年までに国際社会が達成すべき8つの目標を掲げています。

現在mundefでは、MDGsに掲げられる8つのゴールを軸として事業を組み立て、運営しています。

**一般財団法人mundef（music design foundation）**

150-0001 東京都渋谷区神宮前1-14-13

Tel: +81.3.5414.7778

Email: info@mundef.net

URL: www.mundef.net

理事： [代表]谷川寛人（㈱リズムメディア）  
[副代表]信藤三雄（アートディレクター）  
[副代表]久保琢郎（ミュージシャン）  
MISIA（ミュージシャン）  
大宮エリー（作家/脚本家/映画監督/演出家）  
後藤新治（キョードー北陸）  
松中 権（㈱電通）  
清水佳代子（㈱シズオクト）  
監事： 小川恵司/菅原邦彦  
評議員： 盛田正明（(公財)日本テニス協会）  
海部宣男（国立天文台）  
橋本福治（キョードー大阪）  
菅原茂友（㈱ハウフルス）  
太田正治（イベント産業振興協会）  
mundef MESSENGER: 岩本輝雄（元全日本サッカー選手）